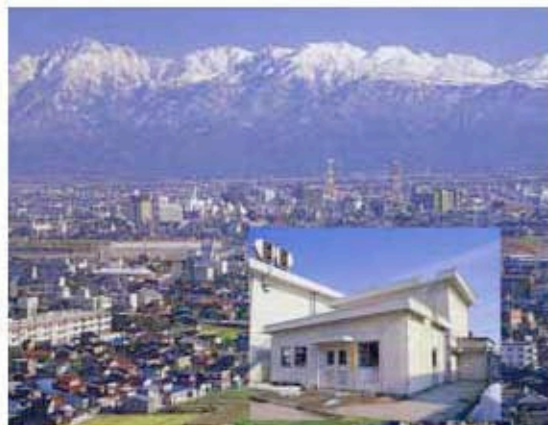


# 富山大学極低温量子科学研究センター



極低温量子科学センター全景と剣岳・立山連峰



KOCHI1410 と 200L 容器

富山大学では1969年よりフィリップスの液体窒素製造装置が稼働を始めた。1975年にヘリウム液化装置 (CTi1204,5L/h) が導入され、両設備を統合して低温液化室となった。1980年には液体窒素製造装置は撤去され、液体窒素を外部導入に切り替えた。1988年に現有のKOCHI1410型液体ヘリウム製造装置に更新され、増加していた液体ヘリウムの需要に応えられるようになった。2002年には5000Lの液体窒素貯層が増設された。低温室は当初寒剤の供給のみを目的としていたが、近年、富山大学における極低温物性研究の拠点としての性格が強くなっていった。そこで2003年に極低温量子科学研究センターと名称を変更した。



He 液化用圧縮機 神戸製鋼 HC-240



He 回収用圧縮機 東亜潜水 YS-85

ヘリウム液化システム 1975 年導入

ヘリウム液化機 CTi 1204

KOCHI 1410 (1988 年更新)

液化用圧縮機 神戸製鋼 HC-240 17.5 Kg/cm<sup>2</sup>

回収用圧縮機 東亜潜水 YS-85

液体ヘリウム貯槽容器 200 L

ヘリウム回収バック 7 m<sup>3</sup>

液体窒素貯槽 1000, 5000 L 2 基

液化能力 ヘリウム液化機 5 L/h

26 L/h (不純ガス)

処理能力 液化用圧縮機 5688 Nm<sup>3</sup>/日

回収用圧縮機 407 Nm<sup>3</sup>/日

刊行物：低温だより 年報 1983 年発行開始

<http://ctr3.ctr.toyama-u.ac.jp/~cryoc/>

センター専属の職員はいません。

〒930-8555 富山市五福 3190

極低温量子科学研究センター